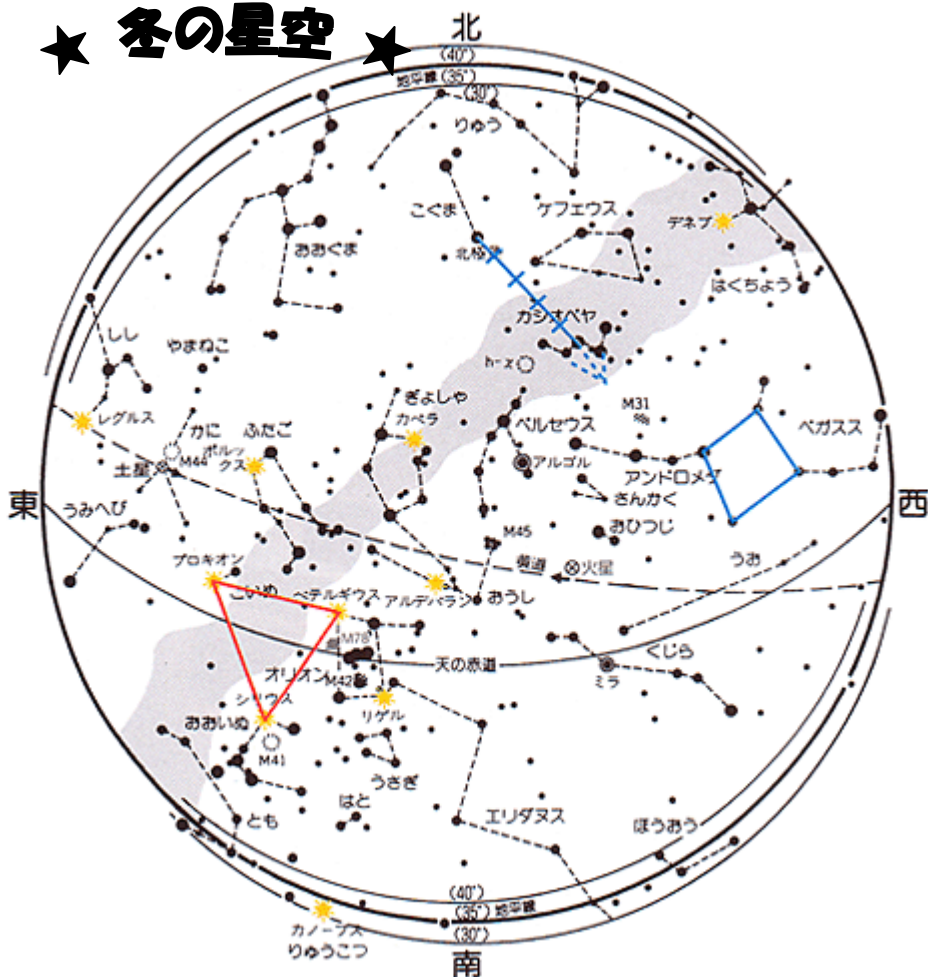


★ ラインナップ ★

- ★ 冬の星空 ★ ☆ うさぎを追いかける二匹の獵犬… おおいぬ&こいぬ座 ☆
- ★ すばるに会いに… マウナケア紀行 ★

★ 冬の星空 ★



南の空にそびえるオリオン座が美しく見える季節になりました。

明るい星がつくる四角形とその中心で輝く一直線に並んだ3個の星“三つ星”。これがオリオン座の目印です。ギリシャ神話の狩人オリオンの姿を星座にしたもので、オリオンの肩先（四角形の左上の星）に赤っぽい1等星《ベテルギウス》、青白い1等星《リゲル》が足元（四角形の右下）に輝きます。またベテルギウスとリゲルが三つ星をはさんで輝く様子は、源平合戦の両陣営の旗の色、平家の赤旗と源氏の白旗、に見立てベテルギウスを“平家星”、リゲルを“源氏星”と呼んでいます。この色の対比も魅力の一つといえます。

オリオンが戦いを挑む先には、赤い1等星《アルデバラン》を目に輝かせたおうし座が待ち構えます。「フレアテス星団（すばる）：M45」や「ヒアテ

ス星団」、重い星の最後におきる超新星爆発の残骸「かに星雲：M1」など星団・星雲を見ることが出来ます。おうし座の上で五角形をつくっている星たちはぎょしゃ座です。そのなかでひとときわ明るい星は1等星《カペラ》。カペラは1等星のなかで天の北極に最も近い星で、冬に限らず見ることが出来ます。

オリオン座にもどって東側に目を向けてみると、そこには目を惹く明るい星《シリウス》が輝いています。大いぬ座の1等星で、その輝きは全天一の明るさです。おおいぬ座の北東には、こいぬ座があります。こいぬ座の1等星《プロキオン》は、シリウス、ベテルギウスとあわせて冬のシンボル「冬の大三角」をつくり、シリウスとプロキオンの間には“冬の天の川”が流れています。

こいぬ座から北の空に目を移していきましょう。すると、そこにも同じように明るい星が二つ並び、ギリシャ神話の双子の兄弟《カストル》・《ポルックス》の名前がつけられたふたご座があります。兄カストルは2等星、弟ポルックスは1等星とわずかに明るさが違います。去年の今頃は、ふたご座に土星が輝き三兄弟のように見えていましたが、今では土星はかに座に移り、この時期見ごろを迎えています。また昨年秋には地球に大接近してその赤い輝きを見せつけていた火星も、まだおひつじ座のあたりで健在ぶりをアピールしています。

うさぎを追いかける二匹の猟犬 ～おおいぬ&こいぬ座～

2006年、今年は成年です。ということで、星になった犬たちを見ていきましょう！

たくさんの1等星が輝く冬。なかでも明るい星が南の空に見えます。その輝きは天を焼きこがしてしまいそうだと考えられた、全天一の輝星シリウスです。犬の口元に輝くシリウスとそのまわりの星がつくる小さな三角形を顔にして、そこから前足が伸び、下の方にある直角三角形をくっつけ後足をのぼしてみると、なんだか犬の姿が描けてきます。ギリシャ神話で地獄の番犬ケルベルスの姿とか、狙った獲物を必ずとらえる猟犬セラフスなどといわれている「おおいぬ座」です。猟犬セラフスは、ミノス王がエレクトウス王の娘プロクリスと夫ケファロスに贈ったものです。ある日、何ものにも絶対につかまらないキツネがあらわれ、国中をあらしていました。そこでケファロスはキツネ退治に猟犬セラフスを送りこみます。しかし勝負はなかなかつかず、見かねた大神ゼウスによって二匹は石に変えられてしまい、セラフスだけはおおいぬ座として輝くようになったといわれています。

もう一匹、おおいぬ座よりちょっと前に、東の地平線から駆け出してくる小さな犬がいます。1等星プロキオンが輝く「こいぬ座」です。こいぬ座で他に目立った星は、小犬の顔に輝く「ゴメイザ：涙ぐむ目」という名前の3等星だけ。冬の寒さにふるえ、涙ぐんだ目でこっちを見つめる可愛らしい千ワワのような小犬をイメージしてしまいます。でもそんな姿とは裏腹に、神話では主人アクタイオンを噛み殺してしまった猟犬として語られています。狩の名人アクタイオンはいつものように猟犬たちを連れて狩をしていました。その途中、泉で水浴びをする女神アルテミスを見かけ…のぞいてしまったのです。それに気づいたアルテミスは怒り、アクタイオンを鹿に変えてしまいました。恐ろしくなって逃げ出したアクタイオン…、でもその姿は鹿です。猟犬たちは獲物があらわれたと思い、襲いかかりました。しとめた獲物が主人だとは気づかずに、いつまでも主人を待ち続ける猟犬たち。星座となった今でも、目にいっぱい涙をためて待ち続けています。

さて、おおいぬ座とこいぬ座を冬の星座たちと共に星空に描いてみると、オリオン座の後ろに描かれ、オリオン座の足元にはうさぎ座が…。決定的な神話の残されていないおおいぬ座とこいぬ座は狩人オリオンが連れた猟犬で、うさぎを追いかけていると見るのが自然かもしれません。んっ、でもおおいぬ座はうさぎを狙って追いかけているように見えますが、冬の天の川をはさんで輝くこいぬ座は、もしかしたら主人オリオンを狙っているのかもしれないよ！

ちなみに、春になるともう一つ犬の星座があらわれます。この星座については「博物館通信 Vol.9」を読みかえしてみてくださいね！

★ “すばる” に会いに… マウナケア紀行 ★

さむい冬がやってきた頃、暖かい陽射しを求めてハワイ島へ行ってきました！ 見どころいっぱいのハワイ島の目玉は、なんととっても“すばる望遠鏡”！ 今回はそんなマウナケア紀行をお届けします。

ハワイ島とは？

ハワイ島は、ハワイ諸島の南端にある一番大きな島です。そのため“ビッグ・アイランド (Big Island)” のニックネームを持つこの島の大きさは、なんと四国の半分ほど！ ハワイといえば常夏のイメージを思い浮かべる人が多いと思いますが、このハワイ島では、世界の気候 (13種類) のうち北極気候とサハラ気候を除く 11種類を体験できます。東部、西部…etc によって気候がまったく違うのです。



また火山によってできた島なので、島のほとんどは真っ黒な溶岩で覆われています。世界遺産となっているキラウエア火山では、噴火の後はもちろん今も溶岩が流れる様子を見ることができるんです（これは必見！）。こんなハワイ島のやや北東部に位置するマウナケア山に“すぼる望遠鏡”があります。

いざマウナケアへ

すぼる見学当日、目覚めると、ヒロの街はあいにくの大雨です（泣）。でもきっと山頂は晴れているに違いない！とそのときはそう気にもせず、マウナケアへ出発しました。マウナケアへ行くには、サドルロードと呼ばれるちょっと舗装の悪いくねくね道を通っていかなくてははいけません。そのため多くのレンタカー会社はサドルロードは保険適用外。しかも山の中腹 2800m のところにあるハレポハクから山頂へ行くには、4WD じゃないとダメなのです。うーむ、すぼるへの道は険しい…。



ハレポハクに生えている高山植物・銀剣草(Silversword)。まさに銀色の剣です！

すぼる望遠鏡は、標高 4200m のマウナケア山頂にあります。マウナケアとは“白い山”という意味。そう、ハワイでも高山では雪が降るのです！ また 4000m 級の山ということで、高山病にも注意しなければいけません。空気が平地の約 60%しかない山頂では、息苦しさや眩暈、頭痛などいろいろな症状が起こる可能性があるのです。というわけで、見学者は高山に慣れるために、まずハレポハクにあるビジターセンター・オニツカセンターで 1 時間ほど休憩を取ります。ここには、マウナケアの天文台群の紹介パネルや模型などが展示され、晴天時には太陽のスペクトル観測などもできます。マウナケア天文台グッズもたくさんあって天文ファンにはうれしいところです。ちなみにオニツカセンターの隣にはスタッフ用のハレポハク宿泊施設があり、観測者もここで十分体を慣らしてから観測に臨みます。

山頂は雪だった…

さていよいよオニツカセンターへ到着です！ …けれど、なんとそこから先は通行止め!? そう、実は猛吹雪で道が凍結してしまっていたのです。ここまで来たのになんでー（泣）。まあきっとなんとかなるさ？ の期待もむなしく、結局、悪天候のため、山頂で働くテイクルーにも下山命令が出てしまい、急遽、予定変更。まずはヒロオフィスにお邪魔することになりました。

まずはヒロオフィスに

オフィスはマウナケア山麓の街ヒロにあります。オフィスのある一角は、他の天文台オフィスも立ち並び、まさに天文台団地！ しかもどれもきれいな建物でなかなかいい雰囲気です。オフィスには、スタッフの研究部屋や観測装置の調整などをする実験室などがあります。ちょうど私たちがお邪魔したときには、近赤外線分光撮像装置 IRCS の改良中で、実験しているところを見学することができました。またオフィスにはちょっとしたビジターギャラリーもあり、観光客も自由に立ち寄れるようになっています。



IRCS の実験中。ホコリが入らないようにピニールの中で作業をしています。

それにしてもヒロに戻ると、またもや大雨。あとで聞いたところによると、ヒロの街も雷雨で停電になってたんだとか（苦笑）。もともと「ヒロは雨の多い街」と聞いていた私たちは、こんなものなのかー、なんて気楽に考えていたのですが、やっぱり滅多にない悪天候に遭遇してしまっていたのでした…。

念願のすぼる望遠鏡へ

翌日、再びマウナケア山頂へチャレンジです。でも早朝の道路情報によると、未だ山頂への道は雪のためクローズ…。けれど諦めきれない私たちは、午後まで様子を見ることに。昨日とは打って変わってお天気のいいヒロの街を散策しながら、なんとかなるかも？ と期待が高



いよいよ山頂へ！ すぼる（左）とケック（右）がお出迎え。

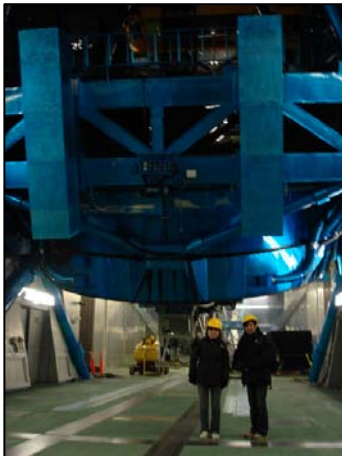
まります。そして昼、オフィスの林左絵子さんから「大丈夫でしょう」とのお返事が！心躍らせながら再びマウナケア山に向かったのです。

オニヅカセンターからはスタッフの方の車に乗せてもらい、いざ山頂へ。すごい、ホントに雪景色なのです。素晴らしく青い空と黒い土、そして雪のコントラストが眩しい…なんて思っているうちに、憧れの望遠鏡ドームたちの姿が見えてきました！いやー、すごい。写真で見たとおりじゃないの!?



すばる名物(?) てるてる坊主。観測室にて。

いよいよすばるドームに到着し、まずは待機室へ。体調チェックのために血中酸素濃度を測ります。…表示は60~70%の間をゆらゆら。おむ、どうも低いらしい。けれど頭痛など特に自覚症状はないし、酸素ボンベも持っていきから大丈夫(!?)ということで、すばるに会いにドーム内部へ向かうことになりました。



すばる とご対面。やっぱりデカイ!

ついに念願のすばるとのご対面です！いやー、さすがに8.2m鏡は大きい！けれど、思っていたよりも意外にコンパクト！イギリス式赤道儀の岡山188cm望遠鏡に比べて、経緯台のすばるはホントにコンパクトなのですよ（西はりま天文台の2m鏡“なゆた”も経緯台なのでぜひ見学してみてくださいね）。改めて実感できました。タイミングよくテイクルーのみなさんが作業中だったため、ドームが回転する様子（といっても、実際には全然動いているのに気がつかないほど滑らかな動きでびっくり！）や真横になるすばる望遠鏡も見ることができ、ただただ感動でした。この後は、鏡の洗浄・メッキ装置へ。こちらもデッカイ！この夏に8.2m主鏡の再メッキを行うとのことで、今その準備を進めているそうです。

じっくりすばるを見学した後は、ツインドームで有名なお隣のケック望遠鏡へ。ここにはビジターギャラリーがあり、ケック望遠鏡自体もガラス越しに見学できます。鏡を複数合わせた10m鏡を誇るケックは、またすばるとは違った趣。こちらも真横を向いていて、鏡の一部などを見ることができました。

最後に、本当の山頂まで連れていってもらい、マウナケア全貌を眺めて、見学終了！心配していた高山病の症状も出ず、大満足で山を後にすることができたのです。

終わりに…

すばる望遠鏡は、2004年10月から一般公開がはじまりました。なので旅の途中に立ち寄り…なんてこともできます！ハワイ島へ行かれる方、ぜひすばるへも足を伸ばしてみませんか？（ただし見学するには事前の申込が必要です。詳しくは「すばるHP：<http://subarutelescope.org/>」へ）

今回の私たちのすばる訪問では、オフィス案内からお天気・道路チェック…と何から何までスタッフのみなさんに大変お世話になりました。最後には「粘り勝ちだね！」とお言葉をいただくほど（笑）。でもおかげで期待以上にしっかりと見学させていただけたことに、心から感謝しています。本当にありがとうございました！またマウナケアのサンセット&星空に会いにいきます。

< 編集後記 >

★ この冬は暖冬っていったじゃないかー！それなのにもう何回、雪を見たことか…。

寒いので、コタツに入ってDSで脳トレ。少しは脳年齢も若返ったかな?? tomo

☆ イルカやクジラにも会えるハワイ島。次回は必ず海の仲間たちに会いにいきます。 Yumi

この博物館通信は、岡山天文博物館が作成しています。次回 冬号は1月ごろ 発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日：月曜・祝日の翌日

博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>